

事業名

住民主体の中立学区地域包括ケア システム構築事業

実施団体

元真如堂町健康福祉と防災
のまちづくりを考える会

二つの講演会を行い、中立学区独自の「健康福祉と防災の地図づくり」を検討しました。

【講演会】 どなたでも参加できます(参加費無し)

春日学区の健康福祉と防災のまちづくり

日時：2019年9月28日(土)午後1時～3時

場所：中立会館 1階会議室(洋室)

講師：松本 修一さん(NPO法人春日住民福祉協議会理事長)

◆いざという時のためにー「福祉防災マップづくり」を学ぼう！ー

春日学区では、以前から、地域の中でどんな人がどのような SOS の声をあげているのかを調査し、それを地図に落とし一目でわかる「福祉防災マップ」づくりの取り組みを続け、しかも毎年更新されているとのこと。

「福祉防災マップ」は、本人の同意を得て地区の担当者だけが見ることができるので、個人情報ももたれることはありません。そしてこれがあれば、災害時の人命救助に大いに役立ちます。また、マンション住民と地域の交流も活発です。

こうした先進的な取り組みに学び、中立学区においても私達らしいやり方で、「福祉防災マップ」づくりや支え合いの仕組みを考えていききっかけにしていきたいものです。皆様方の積極的な御参加をよろしくお願いいたします。



この企画は、上京区のまちづくり活動支援事業として実施されるものです。

【主催】元真如堂町健康福祉と防災のまちづくりを考える会

(問い合わせ先 考える会代表 美留町 090-4298-9412)

【共催】中立学区住民福祉協議会、中立学区自主防災会、元真如堂町町内会

【後援】小川地域包括支援センター、京都市北区・上京区在宅医療・介護連携支援センター

【講演会】 どなたでも参加できます(参加費無し)

いつまでも安心して住み続けることができる 地域づくりをめざして

講師：志藤 修史 先生(大谷大学文学部社会学科教授)

【活動報告】健康福祉と防災の地図づくりの提案

ー新しい中立方式をめざしてー 報告：美留町 利朗

日時：2020年3月1日(日)午後2時～4時(午後1時半開場)

場所：上京区役所 4階会議室

昨年開催した「春日学区の福祉防災のまちづくり」講演会に続いて、今回は「いつまでも安心して住み続けることができる地域づくり」をテーマに、大谷大学の志藤修史先生のお話を聞かせていただきます。志藤先生は、「生活問題とまちづくり・社会保障」を研究テーマとして、各地の生活実態の調査に取り組みながら、くらしから見える社会保障の課題を明らかにすると同時に、課題を改善する根のまちづくりの活動の重要性に着目しておられます。京都の実情にも大変お詳しい方です。ご講演の後、今年度の「考える会」の活動経過と新年度の取り組みについて、「健康福祉と防災の地図づくりの提案ー新しい中立方式をめざして」と題して報告します。ぜひご参加いただきたくよろしくお願いいたします。



この企画は、上京区のまちづくり活動支援事業及び京都府地域交番プロジェクト事業として実施されるものです。

【主催】元真如堂町健康福祉と防災のまちづくりを考える会

(問い合わせ先 考える会代表 美留町 090-4298-9412)

【共催】中立住民福祉協議会、中立学区自主防災会、元真如堂町町内会

【後援】小川地域包括支援センター、京都市北区・上京区在宅医療・介護連携支援センター

*新型コロナウイルス感染予防のため、できるだけマスク着用でご参加下さい。会場入り口に手洗い用アルコール消毒液を用意します。

【印象的なひとこと】町内に住んでいるおばあさんが、3日ほど掃除に出てこない。ボランティアが尋ねたら階段下で亡くなっていた、ということが1回ありました。ボランティアは、必ず支援したり見守りしたりという責任はない。情報をもっていて、様子が変だという時に知らせることが大事。40年以上続けている取り組みなので、苦情はない。いやだという人は載せないが、全体で10軒程度です。昔からやっているのだから、「春日の慣習法」として定着し、協力が得られています。

【印象的なひとこと】新型コロナウイルスの問題に直面しているいまだからこそできることっていくつかあるんじゃないかなと思います。災害などは多くの苦しみや痛みを運んでくれます。しかし、地域で住み暮らす私たちは、そのような災害に負けず、健康、安心、安全を確保する上で、日頃からのまちづくりの活動が重要になってきている。どうすれば一人も見逃さない、すみやすい地域を作っていくことができるのかをいまだからこそぜひ皆さんと考えられたらと思って、今日来ました。

あたらしい中立方式をめざす地図づくりの方向を4つの特徴にまとめました。

① 地域包括ケアシステムとは

- 地域包括ケアシステムは、中立学区における「健康福祉と防災のまちづくり」！
地域住民のだれもが、健康で生きがいをもち、いつまでも安心して住み続けることができるまちづくり
- 日常の支え合いこそ災害時の人命救助につながる！



地図づくりは、地域包括ケアシステムを構築していく基礎資料を得る取り組みです。子どもの貧困、青少年の閉じこもり、ひとり暮らし高齢者の孤立化などの「見える化」をめざします。

SOSの声だけでなく、支援できる人の両方の「見える化」をめざします。個人情報保護についてしっかり検討することが今後の課題です。個人の同意がなにより大切。支援できる人が地図に載れば、悪用を防ぐ力にもなる！

② SOSの声と支援の力の見える化

- SOSの声
子ども、閉じこもり、ひとり暮らし高齢者(75歳以上)、要支援・要介護者、車椅子利用者、障がいのある人、認知症のある人etc.
 - 支援できる人
看護師、介護士、リハ専門職、消防団、福祉ボランティアetc.
- 【検討課題】個人情報保護をどう考えるか

③ マンションと地域の協力したまちづくり ー対策から協力へー

- 「中立方式」はマンション対策が主要な柱
- 2015年国勢調査 マンション居住者**69.8%**
- マンションと地域の共通の課題がみえてきた。
⇒ひとり暮らし高齢者の孤立化
- 40年経過して、地蔵盆を自前で実施するマンションがでてきた(2017年3月調査)
- 災害時支援に有効な社会資源⇒井戸、屋上、防災機材の保管

中立学区の地域特性(7割がマンション)を踏まえて、マンション「対策」と同時にマンションと地域の「協力」について検討します。特に、災害時の防災拠点としてのマンションの役割に注目します。

地域住民が主体となり、地域の医療・福祉等の社会的資源とのネットワークづくりが大切な検討課題です。介護等の支援を個人の責任にしないで、地域社会のまちづくりの課題と考えたいものです。

④ 地域ネットワークの形成

- 病院、介護事業所、小中学校、ホテル、コンビニ等地域の社会資源との連携、ネットワークの構築と充実
- 地域ケア会議への住民参加
日常生活圏としての学区
- 「和い輪いカフェ」、オレンジカフェ等の居場所づくり=健康福祉のまちづくりの拠点づくり

地図づくりの主体は町内会・自治会。新年度から数年かけてすべての町内会・自治会の協力を得て地図づくりをめざします！